

題名 いろいろな木植物の作用・つかい方

(名前)

1、調べたきっかけ

五里米斗のじゅぎょうでホウセンカをそだてて、もっとほかの木植物の事を矢張りたくなつたのでこのレポートでしらべることになりました。図1



2、調べたこと

(1) ^{どめぐさ}血止草についてーセリ米斗の木植物で名前のおり出血を止めてくれるところをもっている木植物。花言葉は、「ひみつ」、成分は「フラボノイド」、「はいとう体」、「クマリン」、「フェルノールさん」、「タンニン」をふくんでいる木植物。図2

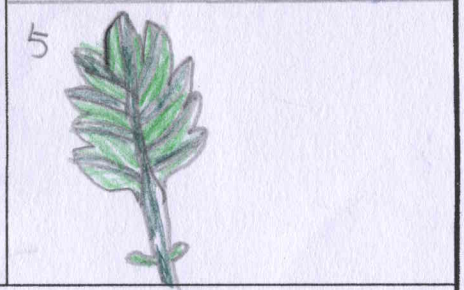
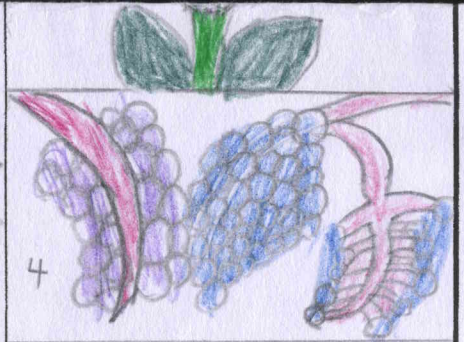
(2) すみれについてーすみれ米斗の木植物で、こう水、甘っけん、パウダーにできる、花言葉は、すみれ色だと、「けんきょ」、「せいじつ」で色により、花言葉は、



ことなる。春を上げる花の一つであり、3~5月ぐぐりがさくときとなる。すみれのネ申言話がある。図3

(3) ヨウシュヤマゴボウについてーやせ地でもそだつ木植物で1.5mの高さになるこ体が多いやせ地では20cmの1個体もある。和糸糸などをすめたり、すりきず"にぬるくすりにもなる。図4

(4) よもぎについてーキク科の木直植物で、くさもちのざいりょう。ヨーロッパ、アジアでは、古いむかしからやくそうとして使われてきました。よもぎは、朝月せん羊とうというしまのネ申言話に出てきています。糸会本にもなっています。図5



3、まとめ

上でしらべた植物たちは、人間をびょうき、けがのあ、かなどから守ってくれる人るいにとって重要である物なんだと矢口た今、SDGsに入るのが早く気がついて、ちきゅうをこんどは、人るいがすくうべきだと調べて思いました。

〈出典〉花言葉-由来(花言葉ドットコム)「男予の花糸会本」(2010年、あすなる書ぼう) 2009年、あすなる書ぼう